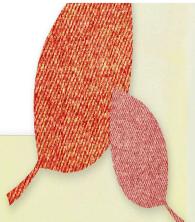


# 2017年



## トンペイ 東北クラブ



第41回 宮城県サッカーリーグ2部成績表

	塩釜NTFC ヴィーセ	KEMONOin 楓木	七郷クラブ	東北クラブ	多賀城FC	南小泉クラブ	バンブルビー白石
塩釜NTFCヴィーセ	2 - 0 ○ 1 - 1 △	1 - 0 ○ 4 - 2 ○	6 - 0 ○ 5 - 0 ○	3 - 4 ● 3 - 1 ○	2 - 0 ○ 1 - 3 ●	3 - 1 ○ 4 - 1 ○	
KEMONOin楓木	0 - 2 ● 1 - 1 △		1 - 1 △ 0 - 0 △	0 - 2 ● 1 - 2 ●	2 - 1 ○ 0 - 5 ●	4 - 1 ○ 0 - 1 ●	1 - 2 ● 3 - 3 △
七郷クラブ	0 - 1 ● 2 - 4 ●	1 - 1 △ 0 - 0 ○		2 - 1 ○ 1 - 0 ○	0 - 3 ● 0 - 5 ●	2 - 2 △ 0 - 4 ●	3 - 3 △ 1 - 7 ●
東北クラブ	0 - 6 ● 0 - 5 ●	2 - 0 ○ 2 - 1 ○	1 - 2 ● 0 - 1 ●		2 - 1 ○ 0 - 1 ●	1 - 1 △ 4 - 3 ○	3 - 2 ○ 0 - 1 ●
多賀城FC	4 - 3 ○ 1 - 3 ●	1 - 2 ● 5 - 0 ○	3 - 0 ○ 5 - 0 ○	1 - 2 ● 1 - 0 ○		3 - 1 ○ 2 - 3 ●	7 - 3 ○ 1 - 3 ●
南小泉クラブ	0 - 2 ● 3 - 1 ○	1 - 4 ● 1 - 0 ○	2 - 2 △ 4 - 0 ○	1 - 1 △ 3 - 4 ●	1 - 3 ● 3 - 2 ○		1 - 3 ● 3 - 4 ●
バンブルビー白石	1 - 3 ● 1 - 4 ●	2 - 1 ○ 3 - 3 △	3 - 3 △ 7 - 1 ○	2 - 3 ● 1 - 0 ○	3 - 7 ● 3 - 1 ○	3 - 1 ○ 4 - 3 ○	

第41回 宮城県サッカーリーグ2部順位表

順位	チーム名	試合数	勝ち	負け	分け	得点	失点	得失点	勝ち点
1	塩釜NTFCヴィーセ	12	9	2	1	35	13	22	28
5	KEMONOin楓木	12	2	6	4	13	21	-8	10
6	七郷クラブ	12	2	6	4	12	31	-19	10
3	東北クラブ	12	5	6	1	15	24	-9	16
2	多賀城フットボールクラブ	12	7	5	0	34	20	14	21
4	南小泉クラブ	12	4	6	2	23	26	-3	14
7	バンブルビー白石	12	6	4	2	33	30	3	20

## 2017年 全試合一覧

1	4/16	宮城県リーグ第1節	11:00	●	0-6	塩釜NTFCヴィーゼ@ひとめぼれスタジアム補助競技場
2	4/23	クラブ選手権2回戦	14:30	○	0-0(PK6-5)	一高済美@松島FBC第1
3	4/30	社会人大会1回戦	13:00	○	6-2	登米SC@加美町陶芸の里スポーツ公園
4	5/07	社会人大会2回戦	10:30	●	0-3	FC SENDAI@加美町陶芸の里スポーツ公園
5	5/14	宮城県リーグ第2節	15:00	○	2-1	多賀城FC@松島FBC第2
6	5/21	宮城県リーグ第3節	14:00	●	1-2	七郷クラブ@七ヶ浜サッカースタジアム
7	5/28	宮城県リーグ第4節	15:20	○	3-2	バンブルビー白石@松島FBC第2
8	6/25	宮城県リーグ第5節	10:00	△	1-1	南小泉クラブ@松島FBC第1
9	7/09	天皇杯1回戦	14:00	●	0-4	東北福祉大学@松島FBC第1
10	7/16	クラブ選手権準々決勝	9:30	●	0-1	ソニーSC@松島FBC第2
11	8/13	宮城県リーグ第6節	12:00	●	0-1	バンブルビー白石@みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
12	9/10	宮城県リーグ第7節	9:30	○	4-3	南小泉クラブ@松島総合運動公園
13	9/17	宮城県リーグ第8節	14:00	○	2-0	KEMONO IN 梶木@みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
14	9/24	宮城県リーグ第9節	10:00	○	2-1	KEMONO IN 梶木@アディダススポーツパーク
15	10/01	宮城県リーグ第10節	9:30	●	0-1	七郷クラブ@色麻町愛宕山公園サッカー場
16	11/12	宮城県リーグ第11節	10:00	●	0-1	多賀城FC@松島総合運動公園
17	11/19	宮城県リーグ第12節	14:00	●	0-5	塩釜NTFCヴィーゼ@アディダススポーツパーク



◆2017年4月23日(日曜日) 全国クラブチーム選手権2回戦 対一高済美戦

◆2017年4月16日(日曜日) 宮城県リーグ2部 第1節 対塩釜NTFCヴィーゼ戦

試合開始：11：00 (40分ハーフ) ひとめぼれ補助競技場グラウンド

【結果】0-6で負け。

【得点者】無し

【アシスト】無し

【スタメン】GK：永井惇

DF：金田和鷹、村岡優志、門松孝尚、小関丈一郎

MF：松浦弘志、茂木淳、残間諒

FW：武田祐介、岩渕雄太、鈴木彰容

【控え】無し

【交代】無し

【警告】無し

【ベンチ】秋保盛樹

【評】(後日)

◆2017年4月23日(日曜日) 全国クラブチーム選手権2回戦 対一高済美戦

試合開始：14:30 (30分ハーフ) 松島フットボールセンター ピッチ1

【結果】0-0で引き分け。PK戦 (6-5で勝ち)

【得点者】無し

【アシスト】無し

【スタメン】GK：松浦弘志

DF：金田和鷹、村岡優志、門松孝尚、小関丈一郎

MF：松行柊人、武田祐介、黒崎友弘

FW：黒田彬央、岩渕雄太、鈴木彰容

【控え】無し

【交代】無し

【警告】無し

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝、小川修一

【評】

快晴だが風は冷たいが、日向のところは暖かく春を感じさせる天気だった。

今シーズン2試合目は、全国クラブチーム選手権予選の2回戦、場所は松島フットボールセンター人工芝グラウンド、相手は一高済美である。

前回に引き続き、今日もメンバーが集まるかどうかが一番の心配事であつ

た。集合時間に何とか11人が集まつたが、本職のキーパーがいない。選手たちはお互いの顔を見合させた。結局、年長者の松浦君がキーパーを引き受けってくれ試合は始まった。14:30キックオフ。

シーズンが始まって2試合目、昨年のメンバーが10名抜け、新しいメンバーで一から築き上げなければならない。毎年のことではあるが、1~3か月は模索が続くのは仕がない。しかし、いいプレーも随所に見受けられたのは明るい材料だ。基本プレーが皆しっかりとしているからであろう。

前半13分、15分とタッチライン中盤からパスで相手を切り崩し、ゴールラインまで迫り、最後は中央で勝負するが得点にはならなかつた。

過去何度も対戦している相手チームだが、新しいメンバーにお互いまごついている感じも見られた。

クラブチーム選手権は、30分ハーフなのであつという間に時間が過ぎて行く。後半に入り、ゴールを期待できる場面が何度もあったが、相手キーパーの好守もあり、ヘディングシュートがゴールポストに阻まれる場面もあり、結局0-0で終了。即、PK戦となつた。

過去、松島フットボールセンターでのPK戦は、内容で押していたのに負けるという、いずれも良い思い出はなく、スタッフの間には「ダメかな」という思いがよぎつた。

相手チームが先攻で、1人目○○、2人目○○、3人目××、4人目○○、5人目○○、6人目○○。GK松浦は回を重ねるごとにセービングの距離が伸び、ボールに触るが惜しくもゴールという場面が続いた。相手にはプレッシャーになっていったであろう。そして7人目、松浦は見事にセービングしてボールを止めた。最後は小閑が冷静に決めて勝利となつた。

今日の試合は、守備は決定的なピンチを殆ど作らせらず、安定感があった。攻撃は、外からのパスワークでゴールまでつながる場面が前半何回かあつた。得点には結びつかなかつたが、これは最も得点に結びつきやすい形であり、今後期待できる。ただ、後半になると中盤からすぐにシュートを急ぐ攻撃や、逆にシンプルでいい所を無駄なパス回しで取られたり・・という場面があつた。周りの声が少ない気がする。

今日から新しく筑波大出身の「黒崎友弘」君が加入して活躍してくれた。しなやかな動きとボールタッチから繰り出されるパスは、これからこの試合での活躍を予感させてくれるものだった。

【鈴木修平記】

◆2017年4月30日(日曜日) 全国社会人選手権1回戦 対登米SC戦  
試合開始: 13:00 (40分ハーフ) 加美町陶芸の里スポーツ公園グラウンド  
【結果】 6-2で勝ち。  
【得点者】 金田和鷹(10分)、黒田彬央(12分)、茂木淳(26分)、  
茂木淳(69分)、武田祐介(71分)、黒崎友弘(74分)

【アシスト】 武田祐介(2点目)、

【スタメン】 G K: 永井惇

D F: 金田和鷹、村岡優志、門松孝尚、小関丈一郎

M F: 松行柊人、武田祐介、黒崎友弘

F W: 茂木淳、黒田彬央、鈴木形容

【控え】 松浦弘志、遠藤晃輔

【交代】 小関丈一郎→遠藤晃輔、鈴木形容→松浦弘志

【警告】 無し

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹

【評】

4月最後の日曜日、全国社会人選手権の予選1回戦は快晴の下で行えた。場所は、加美町陶芸の里スポーツ公園グラウンドで芝生の状態も素晴らしい絶好のサッカー日和と言えた。

相手は登米SC(トヨマ サッカーカラブ)、2年前の3月に松島フットボールセンターで練習試合のお手合わせを願った相手である。今日のメンバーは13人、本職のゴールキーパーもいるので前回よりは心のゆとりを持てた。

13:00 キックオフ。立ち上がりの開始早々、得点となってもおかしくない場面が両チームにあった。しかし、お互い得点には至らず、一進一退の攻防になっていった。前半10分、相手ペナルティエリアの一寸外で空中戦、中盤から中へ入ってきたロビング・ボールに武田が高くジャンプしてヘディングした所に、相手選手が激突した。武田はもんどり打って芝生に転がった。幸い怪我はなかったが危険なプレーで一瞬冷とした。主審はF Kを探ったが警告はしなかった。ペナルティーエリアのライン付近からのF K、キッカーは金田、至近距離だけに期待が高まる。「ピイー」という主審のホイッスルで金田は助走、ボールはキーパーの反応を許さず、ゴール・バーの下を叩いて角度を変えてゴール! 拍手喝采、期待に応えた東北クラブの今シーズン初のゴールだった。1-0。

これでリズムに乗り、何度も相手ゴールに迫る場面が続いた。そして1

2分、CKを得、キッカーは武田。右コーナーから早いボールが飛んでゆく。ボールは自測より遙かに延び、ゴール前のDFの頭上を越えていった。そのボールにドンピシャでジャンプ・ヘディングしたのは黒田だった。ゴールまでかなりの距離があったが、ボールはキーパーの反応を無にしてゴールネットに突き刺さった。2-0。

26分、右からドリブルでDFをかわし、中に切り込んだ黒崎はコースが空いた一瞬の間を逃さず左足でミドルシュート。地を這うようなシュートにキーパーは止めるのが精一杯でハングルする。転がったボールを茂木は見逃さなかった。鋭く詰めて3-0となった。その後もチャンスはあったが追加点はなかった。逆に31分、左から突破され、中に折り返された所を綺麗に決められ3-1となり前半は終了した。

後半に入り、優勢に試合を進めるも膠着状態気味になる。後半22分、味方のファールでPKを採られ3-2となる。この時間のこの点差は微妙である。次の得点をどちらが取るかで大きく流れが変わることを皆知っている。その嫌なムードを、茂木が断ち切った。後半29分、中盤左で待っていた茂木は、絶好のパスをもらうとDF2人を得意のドリブルで翻弄し、ゴールまでは少し距離があったが迷わずシュートした。力のある低く速いボールはキーパーの右を抜いてゴールイン。これで流れは一気にこちらに傾いた。後半31分には、武田が相手キーパーともつれながらも技ありの5点目。後半34分には、黒崎が再び地を這うようなシュートを決めて6点目を挙げ、勝負はついた。

開幕からの2試合は、いい場面を作りながらもなかなか得点にならなかつたが、3試合目でようやく得点の感触が戻ったのではないかと思う。次は、C.SENDAI。昨年の開幕戦ではもう少しのところで勝ちを逃した。おそらく、チームとしてはまだ始まったばかりで連係プレーを模索・構築中ではないかと推測する。気持ちで負けなければ、勝機は十分に有りと見た。



な  
く  
F  
と  
ま

【鈴木修平記】

#### ◆2017年5月7日(日曜日) 全国社会人選手権2回戦 対FC.SENDAI戦

試合開始：10:30 (40分ハーフ) 加美町陶芸の里スポーツ公園グラウンド

【結果】 0-3で負け。

【得点者】なし

【アシスト】なし

【スタメン】GK：残間諒

DF：金田和鷹、村岡優志、門松孝尚、

MF：松行柊人、武田祐介、松浦弘志、岩渕雄太

FW：茂木淳、黒田彬央、鈴木彰容

【控え】なし

【交代】なし

【警告】無し

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹

【評】

結果は0－3。数字だけを見ると「完敗」だが、気分的には「惜敗」という感じで、非常に悔しいという想いが強い。

前半は、お互い緻密な攻めに終始し内容は互角に見えた。チャンスは交互にやってくる。ピンチの後にチャンス、チャンスの後にピンチという状況が続く。

均衡が破れたのは、20分。オフサイドぎりぎりの位置にいた相手FWに後ろから絶妙のパスが出る。ほとんどフリーでキーパーと対峙して放ったシュートは強烈ではなく取れそうにも見えたが、バウンドが変わったのかゴールとなってしまった。

その後は気持ちを切り換え、互角の攻防で0－1で前半は終了した。

後半に入りすぐの3分、相手チームはコーナーキックを得る。ベンチの2人は、後ろで次の試合の選手達の声が大きいので、何かと思い後ろを見る。そして、振り返ったら「ゴール？」という状況になっていた。ほんの一瞬のことだったが2人ともゴールの瞬間を見逃してしまったことに気付く。

試合内容は前半とほぼ同じだったが、明らかに違うのは、相手チームはサイドチェンジして外から大きく中に切り込んでくるのに対し、東北クラブは内から外へ突破口を求めていくのだが、シュートまで行かない。包囲網の中で外へ出られないという感じであった。そして、最終局面までいかないことで体力も徐々に奪われていったようだ。

後半29分、自陣ペナルティーエリアに入ったところで、ドリブルで切り込んできた相手選手が派手に転倒した。ベンチで見る限り、自分で転んだように見えたが、主審の笛が鳴る。「エッ？」と思ったがPKの判定は覆らない。



この3点目で挽回は無理、勝負はついたと誰もが思った。しかし、最後まで得点シーンを現実のものにするための攻撃は続いた。終了間際、DFからつながったボールは、中盤で松浦に渡る。松浦にはラストパスのコースが見えていたのだろうと思う。狙い通りのボールは、コースを読んで走ってきた茂木にピタリと渡る。茂木は相手DFに囲まれながらも絶好のタイミングでシュートした。ゴールシーンが頭をよぎったが、ボールはキーパーの腕の中に納まって試合終了。いつもの茂木なら決まっていたコースであったが、ボールのスピードにいつもの強烈さが足りなかった。きっと前半終了間際に相手のラフプレーで痛めた軸足のためであろうと思った。



今日の試合、いい試合をしながらも負けた。不運な面も多々あったが、「運」も実力のうちとも言われる。「運」も引き込めるようにしたい。もう一つは、相手の攻撃パターン。外へ大きく振って、外で勝負し中へ速くボールを入れて勝負する。これは、どんな相手にも通じる。一瞬でフリーになって勝負できる技だ。我々も、これまで何度もそういう攻めで得点している。練習が多くないのでたまにしか出ないのかも知れないが、強い相手にもこういうプレーができれば勝てる局面ができるであろう。

次回からは、県リーグの試合が続く。厳しい試合の後は、いいプレーが期待できるのが例年である。毎週の試合で疲れも溜まりつつあるが、間違いなくチームプレーは上がっている。

【鈴木修平記】

### ◆2017年5月14日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第2節 対多賀城FC戦

試合開始：15：00 (40分ハーフ) 松島フットボールセンター第2グラウンド

【結果】 2-1で勝ち。

【得点者】 茂木淳（1点目）、黒田彬央（2点目、PK）

【アシスト】 黒崎友弘（1点目）

【スタメン】 G K：松浦弘志

DF：金田和鷹、茂木淳、佐藤博一、小笠原貴大

MF：松行柊人、武田祐介、小関丈一郎、

FW：黒田彬央、黒崎友弘、秋保盛樹

【控え】なし

【交代】なし

【警告】なし

【ベンチ】鈴木修平、吉田和朝、小川修一

【評】

天気予報では「曇り」の予報に期待していたが、午前中いっぱい小雨だった。しかも寒かった。県リーグの第2節、相手は「多賀城FC」。場所は、松島フットボールセンター2。15:00キックオフ。

両チームともメンバーが昨年と大幅に変わり、バリバリの若手がチームの牽引役を務める雰囲気であった。開始早々、主導権を狙い激しい動きが続く。最初は6:4で相手が中盤を制しているようにも見えた。中盤からスピードに乗った攻めを何度も試みていた。対する東北クラブも最近つながるようになってきた連係プレーで、外から相手を崩しゴール前まで何度も迫る。どちらが先取点を取ってもおかしくない状況だった。

前半9分、相手チームが最初のゴール・チャンスを迎える。左から持ち込まれ、低く重いシュートがGK松浦を襲う。誰もが失点を覚悟した。しかし、松浦はセービングしてボールのコースを変え得点にさせなかつた。

前半12分、ピンチの後はこちらにチャンスが来た。中盤左から秋保、黒崎とつなぎ、黒崎がラストパスを出す。受けたのは茂木、いつもの迫力ドリブルで相手DFを突破する。あれよあれよと見ているうちに前にはキーパー一人という場面になる。冷静なシュートは期待に違(たが)わずゴールネットを揺らした。1-0。この1点はプレーヤーもベンチも待ちに待った得点だっただけに大きな歓声を呼んだ。(その理由は最後にわかる。)この1点で、流れは東北クラブに大きく傾き、その後何度も相手ゴールに迫る。

前半24分、中盤下でいいパスを受けた黒田がドリブルでペナルティーエリアに突っ込む。一瞬でDFを振り切りキーパーと1対1で対峙する形になった。キーパーも果敢に飛び出してきて防ごうとした。2人はもつれて転倒した。「ピーッ」主審の笛が鳴り、東北クラブにPKが与えられた。キッカーは黒田、これまですべてきれいに決めてきた黒田だが、この時はキーパーの読みが勝ったかボールはGKに取られたかに見えた。しかし、弾かれたボールは、黒田の前に転がってきた。これを押し込み無事ゴールとなった。2-0。

その後も、27分、35分と惜しい場面があったが追加点はならなかつた。逆に、終了間際の40分、相手チームに絶好のゴールチャンスがあつたが、GK松浦のスーパーセーブに阻まれた。

後半に入り、早めにもう1点欲しいところだったが、相手チームもスピー

ドを生かしてゴールにしばしば迫り、東北クラブのピンチが続く。後半10分、ペナルティーエリア付近でファールを取られ相手のF K。多賀城FCはF Kが上手い。過去、3回ほどゴールを決められている。何とか外れてくれるよう祈ったが…相手が1枚上手だった。ゴールを決められ2-1。

その後、東北クラブも次第に攻勢を強め、いいプレーでゴールに迫る。14分、18分、24分と見せ場を作るがゴールにはならなかった。

後半32分、相手のFWが抜け出してパスをもらいシュートし、ゴールしたが、オフサイドの判定でノーゴールとなる。GK松浦は今日こういう場面が2度あり、幸運にも恵まれているようであった。

後半になって、相手の攻撃スピードが落ちることを期待していたが、案に相違して最後まで攻撃の手は緩まなかつた。それに対し、DF・MFは相手の動きをよく読んで決定的な場面を作らせなかつた。今日デビュー戦の佐藤（博）と小笠原もよく働いて活躍してくれた。結果は2-1での勝利となつた。

試合終了のホイッスルが鳴つた時、正直ほつとした。実は、今日メンバーは10人しかいなかつた。10人：11人ではよっぽど力の差がない限り勝つのは無理である。県リーグの2部にはそんな差のあるチームはない。そんな場面で1人の役目は果たせなくとも0.5人くらいの役目は果たせるかも知れないと出場を買って出てくれたのが秋保さんだつた。秋保さんは自チームの緑のユニフォームと芝の緑に紛れ、忍者のごとく気配を消しているようだつた。しかし、自分のゾーンの相手プレーヤーがキックしようとすると、いつの間にか現れる。コースを邪魔された相手はプレーを乱し本来のプレーではなかつたように見えたのは私だけか？いずれにしても、この年齢で、レベルの低くないこのリーグの80分をフル出場したことは、驚嘆に値する。秋保さんのおかげで勝てたと言つていいだろう。

「秋保盛樹、66歳、宮城県リーグ2部の試合に80分フル出場し、勝利す。」

【鈴木修平記】

#### ◆2017年5月21日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第3節 対七郷クラブ戦

試合開始：14：00 (40分ハーフ) 七ヶ浜スタジアム サッカー場

【結果】 1-2で負け。

【得点者】 黒田彬央 (1点目)

【アシスト】 佐藤博一 (1点目)

【スタメン】 G K : 永井惇

D F : 茂木淳、村岡優志、佐藤博一、小笠原貴大

M F : 松浦弘志、松行柊人、武田祐介、

F W : 黒田彬央、黒崎友弘、小関丈一郎

【控え】 富田将嗣

【交代】 永井惇→富田将嗣

【警告】 松浦弘志、村岡優志、佐藤博一、茂木淳

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛貴、吉田和朝、(小川修一)

【評】

今日は久々の「七ヶ浜サッカー場」での試合であった。近年、人工芝に張り替え、前よりも良くなつたという話があり期待もあった。更に、今日はたまたま「青空市」と銘打った町内を挙げてのお祭りだった。そのおかげかいつもより観客が多かった。先週は小雨で寒かったが、今日は27度という夏のような暑さだった。10:00からの第1試合の副審を小川修一さんが務めてくれました。

14:00キックオフ。今日のメンバーは12人。相手は「七郷クラブ」、ここ数年メンバーを補強し、持ち前のスピードでパスワークに磨きをかけているチームだ。3、4年前は勝ったり負けたりだったが、ここ1、2年はなかなか勝てなくなっているのが実情である。

開始5分、右から相手が攻撃してくる。相手のスローインを奪取しようと競る。ボールがこぼれD Fの前に転がる。D Fは当然クリアした。クリアしたボールは勢いよく詰めてきた相手FWの胸に当たってしまった。ボールは弧を描いてD Fの背後に落ちる。相手FWはそのままの勢いでボールをダイレクトにシュート、角度のないコースを技ありのシュートで決めた。  
0-1。

開始早々の得点はできれば避けたいところだった。七郷クラブには昨年も同じように開始早々得点されている。ここは、気持ちを切り換えていけば、まだまだ挽回できる時間はある。

七郷クラブは、D FからMF、そしてFWへダイレクトでパスがつながる。長年の練習の賜物であろう。それに対し、東北クラブの方はダイレクトとまではいかないが、局地戦で数的優位を作り、相手の防御網を崩し、最後は個人技で突破していくような攻めであった。早いパスワークの相手を封じるために当然当たりも激しくなる。そのせいか、松浦、村岡とイエローカードを切られてしまい前半を終える。

後半開始早々 4 分、相手チームは CK を得る。よくコントロールされたボールはゴール中央に飛んできた。後半から代わった G K 松浦は、目測を過（あやま）たず飛び出しパンチングした。危機は去ったと思ったら、ボールの落下点に相手 FW がいた。彼はこのチャンスを逃さなかった。これで 0-2 とされる。

ここで 1 点を返しておけば、勝負は白紙に戻るという想いは皆にあったはずである。それが 0-2 と逆に離されたため、選手たちの気合いに一層拍車がかかったようだった。お互いにスピードは衰えず、激しいプレーの応酬になる傾向にあった。そのためかイエローカードが東北クラブの 2 人に出され、合計 4 人というこれまでにない大量警告をもらう羽目になった。他のチームに比べ、選手の年齢が若い東北クラブは、少し強く当たると警告される傾向にあるように思えるのは私だけか？ 後半 19 分、右から小関が DF ラインを突破し、アーリークロス気味にセンタリングした。これに茂木のヘディングが待っていた。ゴールラインに叩きつけられたボールは「ゴールか？」と思わせたが、なんと相手 G K の足に当たって方向が変わりノーゴール。惜しいシュートであった。

後半 26 分、ペナルティーエリアで相手 DF に囲まれながらもボールをコントロールし続けていた黒田が、強引に倒される。反則に見えたが笛はならない。黒田はそれでもボールを相手に取られず、倒れながらもボールを中央へ、松行がこれによく飛び込んだが・・・一瞬遅かった。

後半 30 分、中盤からドリブルで攻めあがってきた黒田から、武田にボールがつながる。ゴールまでの前が空いたと見るや武田は迷わずシュートした。強烈なシュートだったが、G K の読みに阻まれる。

後半 33 分、DF の佐藤博一は自陣の右ペナルティーエリア外で相手のボールを奪うと、大きくボールを前線に蹴った。ボールは相手 DF の頭上を越え、俊足を飛ばしてきた黒田につながった。黒田はワントラップで DF 2 人を置き去りにし、一瞬で G K と対峙した。G K の動きを見極めゴール左隅にボールを流し込んだ。1-2、待望の得点だった。

後半 36 分には、茂木が DF ラインを切り崩し、松行にラストパスを送ったがゴールにはならなかった。終了間際にも、茂木が相手 DF からボールを奪ってシュートするも後一歩であった。

前半は、互角の攻防であったように思える。ただ、パスクワクを含めたチームプレーは相手チームに一日の長があった。更に得点された時間が前半は 5 分、後半も 4 分と、立ち上がりのまだ流れに乗れない時間帯であつ

たことが勝敗に大きく影響したようである。しかし、得点された後、気持ちを切り換えてリズムを作り、ゴール前で勝負するという形はこの2、3試合で精度が良

くなっている。外からの攻めも功を奏しているし、あと少しのタイミングの調整でゴールになるであろう。

試合には負けたが、思わず手に汗握る、見応えのあるいい試合であった。

【鈴木修平記】

◆2017年5月28日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第4節 対パンブルビー白石戦

試合開始：15：20（40分ハーフ）松島フットボールセンター第2ピッチ

【結果】 3-2で勝ち

【得点者】 松浦弘志(1点目)、小関丈一郎(2点目)、小西賢(3点目)

【アシスト】 茂木淳(2、3点目)

【スタメン】 GK：残間諒

DF：茂木淳、金田和鷹、小笠原貴大、門松孝尚

MF：小関丈一郎、富田将嗣、松行柊人、黒崎友弘

FW：松浦弘志、鈴木彰容、

【控え】 小西賢、秋保盛樹、小川修一、吉田和朝

【交代】 鈴木彰容→小西賢(60分)

【警告】 富田将嗣(5分)、小笠原貴大(44分)

【ベンチ】 吉田和朝、秋保盛樹、小川修一

【評】

相手は今期下部リーグから昇格したばかりだったものの、ボールへの寄せが早く球際も強い手強さがあった。昨年3月にトレーニングマッチを行ったときはメンバーも入れ替わっており、簡単には勝てない力を持っていた。

開始5分、鈴木がGKと1対1になるもフィニッシュはGKにはじかれる。その後、ボール保持者に激しく行った富田が最初の警告を受けてしまう。

立ち上がりはこちらがやや優勢にボールキープしていたものの、10分にDFの背後を突かれて先制を許すと、ペースは相手に移っていくかと思われた。

しかし、12分、一旦は自らのシュートをはじかれた松浦が、相手DFからボールを奪って単独突破し、しっかりと枠を捉えて同点ゴールをもの

にする。今季FW起用2戦目で、「今日は結果を出します」と宣言していただけのことはある。失点後すぐさま追いついたことで、全体も落ち着きを取り戻したようであった。

15分、相手FWの強引な持込からシュートを許すもわずかに右に外れる。この選手は前回対戦のときもゴールを決めており、パスを受けてからの突破力やシュート力には評価すべきものがあり、もっとも警戒が必要な相手であった。さすがの金田も少々てこずる場面があり、ここを抑えることが勝敗を分ける予感があった。

24分、黒崎のミドルシュートが相手に当たってCKを得る。前半の黒崎は、周囲にフィットせず、いつものボール捌きが見られなかつたが、ファニッシュに持ち込もうという意欲は伺えたので、プレーの選択肢を少し変えていけば、後半は期待できると思われた。

28分には、DFラインを抜け出しかけた相手選手が、GK残間の一瞬の躊躇を見逃さずループ気味に枠を狙つたが、かろうじてバーを叩いて難を逃れた。直後の29分、今度は不用意に中盤でボールを奪われて強烈なファニッシュを放たれたものの、GK残間が正面でしっかりキャッチする。

前半は1対1のスコアで終了した。DFラインが安定していないこと、攻撃に厚みが無く単調になりやすい点はあるものの、先発2戦目の富田のボール散らし、松浦・小関の豊富な運動量など、見るべき点も多かった。

後半は見せ場も増えて接戦となった。

44分、アフターファウルで小笠原が警告を受ける。この時の反則で与えたFKは、壁に入った富田が頭ではじいてCKになったが、いやな予感がした。右からのCKは、GKが処理しようとしたがわずかにドライブがかかって失速、これを見逃さずGKの前に入り込まれた相手選手にヘッドで合わされて再度リードを許してしまうことに。

60分、足の痙攣で動きが止まった鈴木に代えて小西を投入。ハーフタイムの時点では、疲れの出始めたように見えた小関の代わりに投入するプランであった。交代時も、ベンチは小関をトップに上げて小西を右サイドに張らせようとしたが、選手達の要望もあってそのままトップの位置に小西を配した。結果としてはこれが最後に効いたのだからサッカーは分からない。

62分、茂木のアシストを受けた小関が、見事なミドルシュートを逆サイドネットに叩き込む。終了間際の68分には、またしても茂木のお膳立てでスルーパスに抜け出した小西が、GKとの1対1を落ち着いてゴール

に流し込んで勝ち越しに成功したのだ。

鈴木が脚をつらなかつたら、小西をサイドで起用していたら、・・・「タラレバ」が良い方向に反転して勝利をつかむこともあるのだと改めて感じた80分であった。もちろん、ここまで触れなかつた選手も持ち味を出していた。当の鈴木自身も、2度の決定機をはずしたことを悔やんでいたが、フィニッシュに持ち込めるポジショニングは今後に生かせばよい。GK残間は、鼻先で奪われた失点場面以外は、いつもの堅実なプレーで守備陣に安心感を与えていた。後半半ばまで攻撃面では死んだふりをして体力を温存していた茂木は、ラスト20分で右サイドを切り裂きまくって逆転の2ゴールに結びつけた。この勝負強さを今後も發揮できれば、やる方もみる方も楽しめる試合になるのではないか？

【吉田和朝記】

◆2017年6月25日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第5節 対南小泉クラブ戦

試合開始：10：00 (40分ハーフ) 松島フットボールセンター1 サッカー場

【結果】 1-1で引き分け。

【得点者】 黒崎友弘

【アシスト】

【スタメン】 GK：門松孝尚

DF：金田和鷹，村岡優志，茂木淳，佐藤博一

MF：松行柊人，武田祐介，黒崎友弘，小関丈一郎，富田将嗣

FW：松浦弘志

【控え】 遠藤晃輔，尾上智紀

【交代】 村岡優志→尾上智紀，小関丈一郎→遠藤晃輔

【警告】 黒崎友弘，富田将嗣，佐藤博一

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【評】

東北地方もようやく梅雨に入ったようだ。今日の天気は「曇り時々雨」グラウンドには薄い煙のような靄がたちこめていた。幸い暑くはない。今日の相手は「南小泉クラブ」，場所は松島フットボールセンター1。10時のキックオフに合わせ8:30集合である。朝早く起きないと間に合わないので集まりが心配されたが、集合時刻には今日のメンバー13人がほぼ揃っていた。いつもと違いキックオフまで練習時間もたっぷりあり過ぎ、疲れてしまうのではないかと心配するほどであった。前回の試合から約1ヶ月、選手たちの試合感覚が戻るまで少し時間が必要かもしれない。

10：00 キックオフ。お互い小さなパスを回しながら、時折大きく左右に展開したり、試合の流れを作るための模索が続く。南小泉クラブとは仙台リーグで何度か対戦したことがあり、お馴染みのメンバーも何人か見られた。長年培ってきたチームとしてのパスワークや連携の上手さは、毎年一から連携を組み立てていく我々とは一日の長があるよう見えた。そのパスワークで何度か右サイドから攻められるが、DFがよく守り決定的な場面までには至らなかった。

東北クラブは、今日のメンバーの構成から松浦をワントップにして、5人のMFが状況に応じてディフェンス・オフェンスの役割を担う戦法をとった。ディフェンスに関しては期待通りだったが、オフェンスに関しては思うようには行かなかった。攻撃の際、定石通り外へ展開して、サイドから中へボールを入れるのだが、ボールをもらおうとする選手が1人のため、相手DFに簡単にわかつてしまい得点チャンスに結びつかなかつたようだ。ボールをもらおうとした選手の後にできる空きスペースに、もう1人飛び込み、それにパスが合えば得点チャンスはもっとできたと思う。中盤のボール支配率はこちらが良かったことを考えると、次からここを改善したい。優勢に試合を進めているように見えたが、前半33分、相手に決定的なチャンスが訪れ先制を許した。0-1。

後半も、押し気味に進めているようではあったが、前半と同じような流れで決定的なチャンスを作れず、いいプレーでゴール前まで繋いで来ても徒労に終わることがしばしばだった。幸い、相手も気持ちよく攻めてくるが得点には至らなかった。

試合時間も残り3分を切った時、ベンチには0-1のまま終わるのだろうという諦めのムードが漂い始めていた。右からDFを切り崩し、久々に得点の期待ができる場面となった。右ペナルティエリア内でDFを交わし左足でシュートしたが惜しくも外れゴールキックとなる。このゴールキックを中盤から富田がヘディングで相手陣内に押し返す。これを松行が相手DFと競りながらヘディングでノーバウンドで繋ぐ。落下点にいたのは黒崎。黒崎は前にいたDFをワン・トラップで置き去りにし、もう一人いたDFをも抜こうとした。この時、相手DFは足がもつれて転んでしまった。黒崎は眼前まで飛び出して来たGKと対峙した。ぶつかる直前、黒崎のボールはGKがコースを止めようと倒れて来た反対の、右の脇を抜けゴールへと吸い込まれていった。次の瞬間、ベンチから「ウォー！」という歓声が湧いた。1-1。「勝ち」に等しい「引き分け」だった。

GKを引き受けてくれた門松君、臨時とは思えない安定感がありました。  
ご苦労さまでした。

【鈴木修平記】

◆2017年7月9日(日曜日) 天皇杯宮城県予選1回戦 対東北福祉大戦

試合開始：14：00 (40分ハーフ) 松島フットボールセンター1 サッカー場

【結果】 0-4で負け。

【得点者】なし

【アシスト】なし

【スタメン】GK：永井淳

DF：金田和鷹、村岡優志、門松孝尚、佐藤博一

MF：松行柊人、武田祐介、富田将嗣

FW：茂木淳

【控え】なし

【交代】なし

【警告】なし

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹

【評】

気温34度。立っているだけでクラクラし、汗が吹き出す。浜風があるのがせめてもの救いという天候だった。メンバーは9人。これまでの6年間、幸いにも集まりがいくら良くなくても11人を下回ったことはなかった。しかし、今日はメンバー表提出の時間を過ぎるまで待っても人数は増えず、運営委員にメンバー表を催促され、踏ん切りをつけ提出するという始末だった。

場所は、松島フットボールセンター1。相手は、東北福祉大学（現役）だ。11人でも酷いのに9人ではどうなることやら・・・。それに相手は現役の学生チーム、聽けば現役の時何度か試合をしたが、ガチンコ勝負になる相手のようだ。

何点で食い止められるか？ サッカーを始めて50年近くになる自分ではあるが、9人での試合はいまだかつて経験がない。14：00、その未体験ゾーンへ突入した。

開始早々、相手は圧倒的な数的優位がわかっているので、まずはボールを回して徐々にゴールに迫ってくる。すぐにコーナーキックを得る。ボールはよくコントロールされカーブを描いていい所に落ちてくる。ゴールシンガーが一瞬脳裏をよぎるが、GKは平然とパンチングでクリアする。DFも

勝負強く、相手に競り勝ち、コースを読んで未然に危険を防ぎ、最初の5分は無失点で推移した。

相手は、外から崩して中へ入れてゴール前で勝負するという定石の攻撃パターンを多用してきた。当然であろう。DFは1対1では互角以上の守りをしたが、流石（さすが）に相手の上手い連係プレーには突破を許してしまう。そして中に入れられるが、ゴール前での空中戦では東北クラブの方が優勢に見えた。ことごとく跳ね返して時計は10分経過。

トップには茂木が1人いる。時折、味方のパスがつながり茂木に渡ると、2~3人のDFに囲まれながらもドリブルでペナルティーエリアまで持ち込む場面も何度か見られたが、なかなかシュートまではいくことは難しかったようだ。ふと気が付けば、9人で戦っているとは思えない場面がそこにあった。

こうして15分、20分、25分、30分と時間は経過した。依然、0-0のままだ。相手にとって決定的なチャンスもそう多くはない。こちらは攻撃の形はなかなか作れないが、ディフェンスについては、文句のつけようがないくらい完璧だった。外から何度も切り崩され突破されるが、ゴール前では競り合いで、スピードでもほとんど負けなかった。

35分を経過した時、何点で食い止められるかという憂いは、もしかしたら前半を0-0で終えられるのではないか？という期待に変わった。そして、その期待通り前半を0-0で折り返すことになった。

ハーフタイムでも、ユニフォームは汗でぐっしょりながらも、後半戦をどう戦うか（当然「勝つ」と思っている）疲れを感じさせない雰囲気があった。

しかし、後半開始直後1分、コーナーキックがゴール前を横切る。これに素早く反応されて1点を失う。相手も、数的優位だけではゴールできないことを悟り、決定的なチャンスを作るところまで勝負してくるという攻め方に変わってきた。これをやられると、9対11の数的優位が一層効果的になり、加えて体力的にも全盛期の年齢なので、前半完璧に抑えていたディフェンスラインにも少しづつほころびが見えてくる。

6分には相手の本来の攻撃パターンで得点され0-2となる。

中盤は圧倒的に相手が優勢だったが、2失点で食い止めている。しかし、数少ないこちらの攻撃チャンスが、相手にボールをカットされた途端、相手のカウンター攻撃により一気にピンチに陥る。28分、32分と得点を重ねられる。2人少ないということは、こういうことかと思いついた。

精神的にも肉体的にも過酷な 80 分はようやく終了した。 結果は 0 - 4 だった。

試合中、時々 9 人で試合をしているということを忘れる瞬間があった。それほど対等な試合をしていたということになろう。9 人対 1 1 人の未体験ゾーンは、予想していた内容とはかけ離れた素晴らしいものだった。この試合を戦ってくれた 9 人を称えるとともに、これが貴重な経験となってくれることを願う。

【鈴木修平記】

### ◆2017年7月16日(日曜日) 全国クラブチーム選手権予選2回戦 対ソニーサッカークラブ戦

試合開始：9 : 30 (30 分ハーフ) めぐみ野 サッカー場Cグランド

【結果】 0 - 1 負け。

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】 G K : 残間諒

D F : 金田和鷹, 村岡優志, 門松孝尚, 小笠原貴大

M F : 武田祐介, 黒崎友弘, 富田将嗣, 岩渕雄太

F W : 松浦弘志, 遠藤晃輔

【控え】 永井淳

【交代】 なし

【警告】 遠藤晃輔

【ベンチ】 鈴木修平, 秋保盛樹, 吉田和朝

【評】

先週は 9 人で試合を乗り切った。今日は 1 1 人で試合ができることがわかり、37℃（屋外、秋保さんの温湿度計）という温度にもかかわらずなぜか気分が楽であった。

朝の第一試合で 9 : 30 キックオフ。全国クラブチーム選手権の宮城県予選 2 回戦で、相手は「ソニーサッカークラブ」、県リーグ 1 部の試合巧者だ。2015 年の月に同じクラブチーム選手権の 4 回戦で当たり 0 - 3 で負けている。相手のチーム構成は大きくは変わっていないようなので、チームとして連係プレーにさらに磨きがかかっているであろうと推測した。しかし、その反面年齢による衰えも無視できないだろうという期待もあった。

立ち上がりはお互い様子見て始まる。クラブチーム選手権は 30 分ハーフである。40 分ハーフに比べると 1



0分短いだけだが、この10分は大きい。流れに乗った方が一気に勝負を決める公算が大きい。そのため、立ち上がりの5分、終了前の5分は要注意である。

開始3分ピンチが訪れる。ゴール前まで攻め込まれ、相手FWがフリーになってGK残間と1対1となった。シュートされたボールはGK残間の動いた方向とは逆の左に飛んだ。1点を失ったかと皆思った。しかし、残間はそのボールを右手ではじいていた。スーパープレイに周りから拍手が沸いた。残間はこの後も2回普通なら得点となる場面を救った。

ピンチの後はチャンスが訪れる。村岡のオーバーラップ、松浦の中央突破と続いて惜しい場面があったが、残念ながら得点にはならなかつた。

相手は足技とスピードのある2人をトップに置き、中盤を支配し、真ん中から、両サイドから、長年培った連係プレーで切り崩してくる。そして最後はセンタリングをあげてゴール前で「勝負」という攻撃だった。自チームのディフェンス陣はこれに良く反応して得点を許さない安定感があった。

攻撃面は、相手の守備のうまさもあってなかなかディフェンスラインを切り崩してシュートという場面までもっていくことが難しかつた。それで、相手陣内でシュート・コースが開けば迷わずシュートすることを期待した。期待に応えて富田が強烈なミドル・シュートを放ち、GKはハングルしボールはこぼれた。もし誰か詰めていたら1点という惜しい場面であった。

後半も、相手の中盤支配率が高かつたが、押されっぱなしという訳ではなかつた。後半13分、岩渕が抜群の運動量で相手DFのパスを奪い取り、シュートするも得点には至らず。14分には武田に、15分には松浦にも得点のチャンスが巡ってきたが1点をゲットすることができなかつた。中盤からゴールまでのイメージが共有できれば、もっと得点率は上がるであろうが、相手が試合巧者だとなかなか難しい。この辺は、東北クラブの宿命と言えるかもしれない。

試合運びは相手が1枚も2枚も上手だったが、勝負としては互角を感じたのは負け惜しみか。

【鈴木修平記】

◆2017年8月13日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第6節 対バンブルビー白石戦

試合開始：12：00 (40分ハーフ) みやぎ生協めぐみ野サッカー場Cグラウンド

【結果】 0-1で負け。

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】 G K : 松浦弘志

D F : 小関丈一郎、金田和鷹、武田祐介、村岡優志、

M F : 松行柊人、富澤啓、岩淵雄太

F W : 秋保盛樹、串田衛、吉田和朝

【控え】なし

【交代】なし

【警告】なし

【ベンチ】なし

【評】

集合時刻に 11 名はいたものの、うち 2 名は 60 歳代のスタッフで、本来のメンバーは 9 名という状態。同勝ち点で順位を争う相手に、この状態では厳しい。

まずは失点を最小限にするため、あえて 3 トップとして相手 D F からのフィードを遅らせることに。

相手チームには前回接戦で勝っているものの、カウンターが得意で侮れない。逆にこちらが引いて守ることで得意の形に持ち込ませないという計算もあった。

試合は予想通りの展開となり、4 : 6 でボールは支配されるものの、いつものパターンになれない相手は攻めあぐね、中央突破を図ってはこちらの網にかかるという繰り返し。

ところが、前半の早い時間帯に、C K 崩れのこぼれ球を押し込まれて先制されてしまう。これは計算外であった。

こちらはいわば 1 トップの串田にボールを預けて、サイドからの攻撃を仕掛けるが、どうしても枚数が足りない。決定機はつかむものの得点には至らずに後半へ。

後半は両チームとも運動量が落ちて内容的には寂しいものであったが、相手の枠内シュートをことごとく防いだ G K 松浦の好守が光った。同点あるいは勝ち越すチャンスはあったと思われるが、なかなかそういうまくはいかない。

リーグは混戦模様となってきた。我々の試合の後、最下位のチームが勝利したため、3 位以下は勝ち点 3 差の中に 5 チームがひしめく状態となった。次戦は勝って、いや、まず人数を集めて、混戦を抜け出す必要がある。

【吉田和朝記】

## ◆2017年9月10日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第7節 対南小泉クラブ戦

試合開始：9：30 (40分ハーフ) 松島運動公園サッカー場

【結果】 4-3で勝ち。

【得点者】 金田和鷹(1点目), 黒田(2点目), 武田(3点目), 黒田(4点目)

【アシスト】 村岡(2点目), 茂木(3点目, 4点目)

【スタメン】 GK：残間諒

DF：金田和鷹, 門松孝尚, 村岡優志, 小笠原貴大

MF：茂木淳, 松行柊人, 武田祐介,

FW：小関丈一郎, 鈴木彰容, 名取優

【控え】 遠藤晃輔, 尾上智紀, 黒田彬央, 斎藤太地

【交代】 名取優→黒田彬央, 村岡優志→尾上智紀,

鈴木彰容→斎藤太地, 小関丈一郎→遠藤晃輔

【警告】 尾上智紀, 小笠原貴大

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹

【評】

今年の夏は異常だった。仙台は、7月末に「梅雨明け」したと思ったら、それ以来ずっと雨・雨・雨。昭和9年以来の長雨35日という新記録だったようだ。9月に入り今日は久々の快晴で感謝こそすれ文句を言う訳ではないのだが、気温は30度を超していたので、もう少し低くても良かった。

今日は「松島運動公園サッカー場」, 相手は「南小泉クラブ」, 前回は1-1で引き分けている。現在、東北クラブは6試合を終え、2勝3敗1分けの成績である。メンバーが集まらず不本意な結果を余儀なくされてきたが、今日は久々に15名の参加で意氣も上がる。

9:30キックオフ。開始早々、名取がコーナーキックを得る。お互い、様子見の中にもチャンスがあれば得点してやろうという意図がありありだった。

前半7分、GK残間はゴール前に高く入って来たボールをいつものようにジャンプしてキャッチした。特に難しいボールではなかったが、ボールは手から滑り落ちた。そこに相手FWがいた。相手にとってはラッキーな1点となった。0-1。

前半10分、センターラインから少し入ったところでFKを得る。キッカーは金田。距離は30m以上あると思われた。普通の選手にはちょっと遠いが金田にとっては丁度良い距離だったようだ。笛が鳴る。金田はほとんど助走なしで蹴った。ボールは弾丸ライナーとなって弧を描き、GKの

頭上でドロップした。キーパーもこれに反応して素晴らしいセービングを見せたが、その手をかすめてゴール左スミに突き刺さった。ベンチからは大歓声が上がった。1-1。

前半35分、左サイドからドリブルで上がった村岡は、ゴールの前に走り込む黒田のコースを予測して得意の左足でゴール前にボールをあげる。ボールは相手DFの背後に落ちた。これを黒田が技ありのゴールを決める。2-1。

後半、開始1分。相手FWはハーフライン辺りでボールを高くゴールにめがけて蹴った。ボールは観客が見守る中、あれよあれよという間にゴールに吸い込まれるように入って行った。蹴った選手のセンスに拍手するしかないゴールだった。これで2-2となり、振り出しに戻る。

2-2になってからは、お互いに攻守のせめぎ合いが続く。1点を獲つた方が有利になるのは目に見えているので、お互いにできるだけ得点になりそうな決定的なチャンスを作ろうとするし、逆に危ないところは早め早めに潰すという息の抜けない試合展開が続いた。

後半も残り5分を切った時、均衡は破れた。破ったのは東北クラブ、相手の攻めをカットしたDFから、右にいた茂木にボールが渡る。相手DFはこれまで何度も茂木のスピードに振り切られているので、当然2枚以上で当たる。引き付けておいて茂木は前に行くと見せかけて中へ切り返す。当然止めようと次のDFが上がってくる。それで右にフリーの空間ができた。茂木はそこにラストパスを出した。ボールは茂木を止めようとするDFの方向と逆になり、カウンター・パスとなり武田の前に、武田はジャスト・タイミングでシュート。GKはシュート・コースを消すべくゴール右に寄っていたが、ボールはGKのセオリーを破ってネットに突き刺さった。待望の追加点にベンチから再び大きな歓声が上がった。3-2。

この2分後の38分、中盤左付近でDFが相手からボールを奪う。ボールは茂木に渡る。茂木はハーフラインを超えたあたりからゴールに一直線にドリブル突破をかける。1人、2人と交わすと最終DFが上がってくる。その空きスペースに再びキラー・パス。そこに走りこんでボールを受けたのは黒田。黒田の前にはGK1人。黒田は相手GKの動きを見定め、ゴール右隅に弾道が見えないような超速シュートを放った。「ガン」という音とともにボールが勢いよく跳ね返ってきたため、しばらくゴールしたのか



わからず静寂が漂ったが、ゴールの後ろのポストに当たったと分かるとドッと湧いた。

残りは約2分。これで「勝負あった！」とベンチは思った。しかし、相手チームは1分後に1点を返し4-3にする。30秒で1点が入る世界である。相手の攻勢に、最後まで手に汗握る試合となった。しかし、勝利の女神は東北クラブに微笑んだ。久々の勝利に、暑さと疲れも吹っ飛んだ気分だった。

今日は、新しく2名が加入してデビュー戦を飾ってくれました。一人は「名取優」君。もう一人は「齋藤太地」君。今後の活躍が期待できる内容でした。

【鈴木修平記】

◆2017年9月17日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第8節 対KEMONO in 楠木戦  
試合開始:14:00 (40分ハーフ) みやぎ生協めぐみ野サッカー場(県サッカー場)C

【結果】 2-0で勝ち。

【得点者】 松浦弘志(1点目), 小関丈一朗(2点目)

【アシスト】 松行柊人(1点目)

【スタメン】 GK: 残間諒

D F: 金田和鷹, 門松孝尚, 尾上智紀, 小関丈一朗

M F: 松行柊人, 武田祐介, 富澤啓

F W: 松浦弘志, 茂木淳, 串田衛

【控え】 永井淳(怪我)

【交代】 なし

【警告】 なし

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹

【評】

台風18号が今日宮城県を通過する見込みで、天気予報では午後から雨だった。9時から運営当番で、2試合を記録していたが午前中はちょっと風が強いものの、普通の曇りであった。しかし、午後1時を過ぎたころからポツポツ降り出し、第3試合の我々の試合開始の頃には本格的な雨となっていた。

今日の対戦相手は「KEMONO IN 楠木」、場所はみやぎ生協めぐみ野サッカー場(県サッカー場)Cグラウンド。メンバーは12名だったが、GK永井が練習で指を痛めたため11名となった。黒雲が低く垂れこめ雨足が強くなったり弱くなったりで、選手達も試合の組み立て方をど

うしたらしいか模索していた。

14:00 キックオフ。相手チームは、個人技もあり、チームプレーも素晴らしいものをもっており、加えてDFは皆ヘディングが強い。これまで勝ったことがないチームである。

序盤はお互い小さいパスを通しながらゴール前で勝負するという形が続いた。後半は、それに大きなロングパスで、左右から揺さぶりを加える展開となった。東北クラブのDFは、試合を重ねるごとに安定感を増してきているようで、相手の個人技とパスクワードで攻められても、簡単には決定的チャンスを作らせない安定感が出てきた。

攻撃は、毎回メンバーが違うために最初はちぐはぐな場面がみられるものの、試合が進むにつれて、息が合った素晴らしい連係プレーも見せてくれた。

前半3分、そんな攻撃の中から串田に絶好のゴールシーンがあったが得点には至らなかった。前半33分、茂木がドリブルで中央突破し、ペナルティーエリア左へDFを交わし中へ折り返す。ボールはゴール前を横切り、当たれば入る絶好の得点チャンスだったが・・・誰もいなかった。

しかし、これでCKを得、キッカーは松行。ボールは弧を描いてDFの頭上を越してきた。落下点にいたのは松浦。ダイレクトにゴールを狙う。ジャストミートしたらDFに当たって得点にはならなかったのではないかと思えるような、ボールのコースはDFの予測を裏切り、ゴールネットを大きく揺らした。相手DFは見ているだけしかできなかつた。待望のゴールであり、久々にFWの重責を果たした松浦のゴールでもあった。1-0。

後半13分、門松、茂木のコンビで左サイドを崩す。茂木がDFを抜いてゴール前に早いボールを上げる。相手DFは抜けたら得点されると見て、落下点にスライディングしてクリアした。このボールをセンターライン・サークル付近にいた小関が取つた。小関はワン・トラップして思いっきり右足を振り抜いた。ボールは雨の中を強烈なスピードのまま、ゴールネット左上隅に一直線に突き刺さつた。この位置から、この距離ではなかなか入るものではない、スーパー・ゴールと言って良いゴールだった。2-0。

時折、雨が猛烈になつたり、小雨になつたり、暗くなつたり、強風が吹いたりで全員ずぶ濡れになつての試合だった。しかし、守備も攻撃も今季一番の出来ではなかつたかと思わせる良い試合であった。選手たちの疲労もさぞかしと思うが、勝つことで心地良いものになってくれればと思う。

今日のような試合を続ければ、リーグ戦の最終結果は楽しいものになるだろう。運営当番を手伝ってくれた金田君、茂木君に感謝します。

【鈴木修平記】

◆2017年9月24日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第9節 対KEMONO in 楓木戦

試合開始：10：00 (40分ハーフ) 場所：アディダススポーツ・パーク

【結果】 2-1で勝ち。

【得点者】 金田和鷹（1点目），黒田彬央（2点目）

【アシスト】 小笠原貴大（1点目），名取優（2点目）

【スタメン】 GK：残間諒

DF：金田和鷹，門松孝尚，小笠原貴大，小関丈一朗

MF：松行柊人，武田祐介，黒崎友弘

FW：茂木淳，黒田彬央，名取優

【控え】 松浦弘志，村岡優志，遠藤晃輔，鈴木形容，串田衛，齋藤太地

【交代】 名取優→串田衛，黒崎友弘→遠藤晃輔，遠藤晃輔→鈴木形容

【警告】 なし

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹，吉田和朝，永井淳

【評】

今日は秋晴れで、日陰は寒いが、陽の当るところは汗ばむ真夏を思わせる天候であった。場所は、アディダススポーツ・パーク。8:30集合という早い時間だったが18名も集まってくれた。

相手は先週と同じ「KEMONO in 楓木」だ。県リーグに昇格してから4年になるが、2週連続で同じ相手と試合をするのは初めてである。先週は台風の雨の中での試合、今日は快晴の下での試合、全く違う展開になるであろうことは容易に想像できた。

10:00キックオフ。立ち上がりは、先週の余韻が残っているのか東北クラブのペースのように見えた。選手たちの動きにもキレがあり、パスも連携プレーも冴えていた。

前半3分、茂木が右から快足を飛ばしてドリブルでDFを置き去りにしていく。右ペナルティーエリア付近から低空の地を這うようなシュート、GKはシュートをかろうじて止めボールは前に跳ね返った。誰かいればゴールという場面だった。

何度か盛り上がる場面があった後、13分ペナルティーエリア内での攻防の中で、松行がボールを奪取しよう



とした時、背後から詰めていたD Fが接触、「パキン」という音がして松行は倒れた。わかりやすいP Kだった。先制のチャンスに周りはもう入った様な気分になっていた。しかし、名手松行も力が入り過ぎたか蹴ったボールはゴールの左外へ出て行った。

先制はならなかつたが、その後も東北クラブの攻勢は続く。

松行はその後も、いて欲しいところに現れるという抜群の運動量で活躍する。そして前半20分、中盤でのパス連携からゴールへのコースが空いたと見るや迷わずロングシュートを放つ。かなり距離があったため、少し余裕で見ていたG Kが慌ててパンチングして逃げるほど強烈なものだった。ベンチからも「おー！」と声が上がる。そして、コーナーキック。キッカーは松行。ボールは遠い方のゴールポスト付近に、これを小笠原がヘディングでゴール中央へ折り返す。相手にとっては嫌なコースだったろう。相手はG KとD F 2人がジャンプしたが落下したボールを金田が競り勝って「ゴール・イン」。金田の勝負強さが光ったゴールだった。1-0。

前半30分、左から名取がドリブルで相手D Fを引き付ける。空いたスペースに黒田が走る。名取のパスを受けた黒田は相手D Fにブロックされながらもシュート・チャンスを窺う。右へ動きながら、一瞬ゴールへのコースが空いた隙を黒田は逃さなかった。G Kの左ヘシュート。G Kは一度重心を右へ移したため、左ヘシュートを打たれて一瞬反応が遅れたようにも見えたが、強烈な弾丸シュートは容赦なくゴールネットを揺るがし2-0。

32分には、パスをつなぎペナルティエリアでの攻防となる。松行が相手D Fを一瞬でかわしてシュートした。ボールは相手D Fに当たり、ゴール前の名取に転がった。あまりの好状況に遭遇し戸惑ったか、一瞬シュートが遅れた。相手D Fのスライディングに惜しくも初ゴールはならなかつた。後で振り返れば、前半にもう少し得点できていればと思えた。

後半も、左から茂木が何度もドリブルで突破しチャンスを作る。相手のチャージを受けながら、コントロールを失わない強靭さにベンチから何度も歓声が上がった。

後半11分、茂木は左中盤からアーリークロス気味のセンタリングをゴール前に上げた。ボールはゴール前に待っていた黒崎にピタリと合つた。黒崎は冷静にゴール左を狙いシュートした。G Kは諦めた。誰もがゴールと思った。しかしそこにD Fの一人が矢のようにスライディングで飛び込んできた。D Fの足にかすったボールはバーに当たってゴールの外に出て行

く。相手DFの超ファインプレーだった。

この後、相手の体力が消耗することを期待したが、案に相違して動きが衰えることはなかった。それまで優勢だった東北クラブだったが、徐々に相手が盛り返す。後半22分には、右からのセンタリングにダイビング・ヘッドで合わせられて得点される。これで更に勢いが増していった。

しかし、DFもMFもFWも必死で応戦し逃げ切ることができた。この同一カードの2連勝は大きい。

ゴール・チャンスは多くはないが、必ず訪れる。その時ゴールできるかどうかが東北クラブの勝敗のカギを握っているようだ。是非、ゴールのイメージを思い描いて「その時」に備えよう！

【鈴木修平記】

◆2017年10月1日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第10節 対七郷クラブ戦

試合開始：9：30（40分ハーフ） 場所：色麻町愛宕山運動公園サッカー場

【結果】 0-1で負け。

【得点者】なし

【アシスト】なし

【スタメン】 GK：残間諒

DF：金田和鷹、村岡優志、小笠原貴大、齋藤太地

MF：松浦弘志、松行柊人、黒崎友弘

FW：茂木淳、鈴木形容、串田衛

【控え】なし

【交代】なし

【警告】串田衛

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【評】

天気予報では「快晴」、運動会にもサッカーにも絶好の日和だった。ただ朝8：00に会場の色麻町愛宕山運動公園サッカー場に集合した時点では、靄がかかり薄暗く寒かった。

ここ3連戦を3連勝で飾り勢いに乗る東北クラブであるが、今日はM2（就活メンバー）の内定式があるということで常連が出席できない。それでも、11人が揃った。

相手は「七郷クラブ」、県リーグ1部にも在籍していた試合巧者だ。今年度は調子に乗れず苦戦しているようである。しかも今日負けると深刻な状況（降格）になることが予想され、かなりの気合を入れて来るであろう

ことは十分予想できた。

試合開始近くになるとそれまでの薄靄が一転、太陽ギラギラ真夏のような天気になった。9：30 キックオフ。

試合開始の5分間は要注意が鉄則だ。得点は良いが失点は極力避けたい。相手チームも同じで、さらにはこちらの出方を慎重に見極めようとしているように見えた。試合の流れは比較的穏やかで、ピンチもそうそう無く、しかしチャンスもそんなには無かったようだ。

中盤でのボール支配率は、圧倒的に相手チームが高いように見えた。聞けば中盤の要のひとりである松行が先週の練習中に肉離れを起こしたらしい。ちょっと力を入れると即「肉離れ」で戦線離脱という状況のようだった。その影響もあってか中盤は長らく相手が優位に立っていた。それを崩そうとFWがよく頑張っていた。勢い余ってか警告をもらってしまう場面もあった。

DFも新加入の斎藤がよく守り、まわりの連携もよく決定的なピンチの場面は殆ど無かった。前半はこのような流れで0-0で終わった。

後半、開始1分に大きなチャンスがやってきた。

中盤で松浦がボールをキープ、相手DFが横一線に並んだところに茂木が走る。松浦はこのタイミングを逃さない。キラー・パスが通る。ボールは相手DFの脇を抜け茂木にピタリと合った。茂木はスピードに乗ったまま1トラップする。GKとの間合いを見極め、ゴール右隅にコントロールされた低弾道シュート。

これは「入った！」と誰もが思った。しかしその瞬間「カン！」と音がしてボールは無情にも跳ね返る。ボールは後ろを振り返ったGKの胸に納まった。「あ～っ・・・」ベンチにため息が漏れた。

これが契機となり、後半の前半は東北クラブのペースとなった。FW鈴木(彰)も切れ味鋭いドリブルで何度もDFを翻弄し攻め込んだ。14分、16分と立て続けにチャンスがあったが、これも残念ながら得点には至らなかつた。

チャンスの後にピンチあり。17分に相手がCKを得る。DF陣の集中力が少し弱いように見え、ベンチに嫌な予感が走った。右からのボールはゴール前の密集地帯に落ちてきた。ボールはGKがパンチングしたもの何回かゴール前を行き来し、最後は相手の気魄に押し込まれたようなゴールとなつた。痛い失点だった。決定的なピンチがそれ以降も無かつただけに余計悔やまれた。



満足には活躍できない松行だったが、ボールが来るとつい反応してしまう。  
流れを止めずにボールをつなぎ攻撃に参加した。もう少し松行の足に負担



#### ◆2017年11月19日(日曜日) 塩釜NTFCヴィーゼ戦

のかからない使われ方があったら、と思うのは高望みか？

## 第41回 宮城県サッカーリーグ2部個人成績表 得点ランキング

### アシストランク

順位	氏名(チーム名)	ポイント
1	草刈大地(白石)	15
2	高橋裕司(塩釜)	8
3	寺崎容平(多賀城)	7
4	大野友希(白石)	6
4	兼平絆孝(七郷)	6
6	斎藤裕也(多賀城)	5
6	村岡 洋(塩釜)	5
6	鈴木竜樹(多賀城)	5
6	小林智哉(南小泉)	5
6	伊藤 将(塩釜)	5
6	黒田彬央(東北)	5
12	沼田直樹(多賀城)	4
12	本郷弘武(南小泉)	4
12	平良木元(楳木)	4
12	秋山浩孝(楳木)	4
12	石川 純(塩釜)	4
17	劍重輝一(多賀城)	3
17	佐々木雄太(塩釜)	3
17	浦山義人(多賀城)	3
17	工藤 学(南小泉)	3
17	吉崎裕一(白石)	3
17	大箱将紹(七郷)	3
17	岩佐憲佑(南小泉)	3
24	阿部航平(南小泉)	2
24	今野大輝(南小泉)	2
24	金田和鷹(東北)	2
24	松浦弘志(東北)	2
24	加茂 翼(七郷)	2
24	鈴木宗俊(多賀城)	2
24	太田悠史(塩釜)	2
24	小関丈一郎(東北)	2
32	幕田 謙(白石)	1
32	中村 升(南小泉)	1
32	大場 元(塩釜)	1
32	茂木 淳(東北)	1
32	杉本 翼(白石)	1
32	太田善貴(楳木)	1
32	中野寛也(塩釜)	1
32	黒崎友弘(東北)	1
32	オウンゴール	1
32	西山貴也(多賀城)	1
32	小西 寛(東北)	1
32	徳永光熙(多賀城)	1
32	松崎駿太郎(七郷)	1
32	遠藤勇樹(多賀城)	1
32	桑原幸太郎(多賀城)	1
32	跡部仁人(白石)	1
32	武田祐介(東北)	1
32	日下裕太(楳木)	1
32	矢ノ目猛(白石)	1
32	庄子 渉(塩釜)	1
32	及川裕也(南小泉)	1
32	木村博人(白石)	1
32	佐々木啓祐(楳木)	1
32	籠谷明徳(多賀城)	1
32	田原大敬(南小泉)	1
32	高橋光太(白石)	1
32	鈴木 曜(楳木)	1
32	鈴木琢矢(南小泉)	1
60		0
		0

順位	氏名(チーム名)	ポイント
1	草刈大地(白石)	7
2	高橋裕司(塩釜)	6
2	村岡 洋(塩釜)	6
4	浦山義人(多賀城)	4
5	大野友希(白石)	3
5	工藤 学(南小泉)	3
5	鈴木宗俊(多賀城)	3
8	我妻拓宣(南小泉)	2
8	石川 純(塩釜)	2
8	伊藤 将(塩釜)	2
8	日下裕太(楳木)	2
8	茂木 淳(東北)	2
8	及川裕也(南小泉)	2
8	鈴木竜樹(多賀城)	2
8	菅野祐太郎(楳木)	2
8	松本正志(七郷)	2
8	早坂 渉(多賀城)	2
8	跡部仁人(白石)	2
8	遠藤勇樹(多賀城)	2
8	本郷弘武(南小泉)	2
8	平良木元(楳木)	2
22	寺崎容平(多賀城)	1
22	森 翔太(塩釜)	1
22	今野大輝(南小泉)	1
22	熊谷伸彦(七郷)	1
22	名取優(東北)	1
22	曳地安宏(楳木)	1
22	桑原幸太郎(多賀城)	1
22	竹森 優(塩釜)	1
22	佐藤博一(東北)	1
22	阿部航平(南小泉)	1
22	松行惣人(東北)	1
22	照井慎也(七郷)	1
22	村田良太(楳木)	1
22	佐々木敬也(塩釜)	1
22	沼田直樹(多賀城)	1
22	片山勇太(塩釜)	1
22	白川裕貴(多賀城)	1
22	黒崎友弘(東北)	1
22	齋藤裕也(多賀城)	1
22	劍重輝一(多賀城)	1
22	村岡優志(東北)	1
22	阿部敬太(多賀城)	1
22	中村 升(南小泉)	1
22	畠 勝史(七郷)	1
22	小笠原貴大(東北)	1
22	吉崎裕一(白石)	1
22	大野友義(白石)	1
22	山本 純(七郷)	1
22	龍谷明徳(多賀城)	1
22	杉本 翼(白石)	1
22	田村丈一郎(南小泉)	1
22	三浦拓之(白石)	1
22	後藤純平(多賀城)	1
56	草刈翔太(白石)	0
56	0	0
56	0	0

2017年メンバー



鈴木修平 秋保盛樹 吉田和朝 佐々木元樹 小川修一 残間諒



松浦弘志 金田和鷹 茂木淳 村岡優志 松行柊人 小西賢



千葉一暉 小関丈一朗 永井惇 門松孝尚 武田祐介 黒田彬央



小笠原貴大 佐藤博一 串田衛 鈴木彰容 岩渕雄太 黒崎友弘



富田将嗣 遠藤晃輔 名取優 尾上智紀 富澤啓 斎藤大地



会長 小川譲次 代表 嶺岸優

残りは2試合となった。今年のリーグ戦は混戦の様相を呈している。まだどうなるかわからない。1ヶ月以上の空きがあるので、気力を蓄えて臨もう。

### 【鈴木修平記】

◆2017年11月12日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第11節 対多賀城F C戦

試合開始：10：00 (40分ハーフ) 松島運動公園サッカー場

【結果】 0-1で負け。

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】

GK：残間諒

DF：金田和鷹，門松孝尚，小関丈一朗，佐藤博一

MF：茂木淳，松行柊人，武田祐介，富田将嗣

FW：黒田彬央，名取優

【控え】 松浦弘志，村岡優志，永井惇，鈴木彰容，小笠原貴大，齋藤太地

【交代】 名取優→鈴木彰容

【警告】 富田将嗣

【退場】 黒田彬央

【ベンチ】 鈴木修平，秋保盛樹

【評】

今日勝てば、リーグ戦で2位に浮上できる直接対決ということで東北クラブはこれまでなく盛り上がっていた。シーズン最多の17名が集合したことからもその意気込みが感じられた。朝8時30分という早い集合時間にもかかわらず、ほとんどがその前に到着していた。

10時キックオフ。相手は今季好調で現在2位の多賀城F Cだ。ここ1週間でめっきり寒くなり、半袖のユニフォームでは間に合わない季節となっていた。

開始早々、その意気込みがプレーにも表れる。ゴール前まですんなりパスが通り、ゴール・チャンスを期待させる場面がしばしば続いた。

9分、続けて2回のCKを得る。2回目のCKは予想を上回る伸びを見せたボールが、DFの佐藤（博）に合った。コースは良かったがゴール・ネットを揺らすだけの勢いはなかった。

20分には松行がペナルティーエリア付近で、鋭いドリブルで相手DF

を翻弄しシュートするもGKの正面で入らず。

21分には右から連係パスワークでゴール前に迫るが、ゴールには至らす。

26分には黒田がスピードとテクニックでゴール前まで肉迫するが、角度がなくサイドネットを揺らすに止まった。

27分には松行が、29分には黒田がと攻勢は続くがゴールを割ることができなかつた。

力が入り過ぎて、空回りしているように感じた。チャンスは多々あったものの0-0で前半を終了した。

後半に入り、相手にチャンスが多く巡って行ったが、幸いにもゴールには至らなかつた。前半の状況から考えれば、先取点は時間の問題かと思えた。

しかし後半8分、不測の事態が東北クラブを襲つた。

中盤のタッチライン際でDFからのロビングボールを追つた黒田は、足を延ばしてトラップしようとした。しかし、そこにはヘディングしようとした黒田はぶつかり、二人とも倒れた。審判は笛を鳴らし、相手選手を診る。2~3分の後、主審の右手からレッドカードが出て、黒田は退場となつた。ぶつかった時のボールの位置を見ると、危険なプレーと判定されても仕方がないと思った。

これにより東北クラブは10人で戦うことになった。控え選手が多数いるのに皮肉なものである。ポイント・ゲッターが欠けたこともあり、チームには何とも言えないムードが漂つた。

しかし、一気に得点されるのではないかと思ったが、試合を見る限り一人少ないとと思えない内容だった。茂木はいつも以上の運動量とガッツで突破口を開き、何度もゴール前まで肉薄した。

29分にはハーフタイムで交代した鈴木（彰）が絶好の位置で、あわやゴールかと思わせるミドル・シュートを放つ。DFも最後まで緊張を持続して、決定的な場面を作らせないようにしていた。

残り時間も3分を切った時、相手チームはCKを得た。ボールは弧を描いてゴール前に落下してきた。相手FWの一人がかろうじてヘディングしたボールは左に流れた。ボールはゴールポスト左に当たりゴールイン。GKの守備がどうのこうのと言うゴールではなかつた。これが決勝点となり試合は終了した。0-1。

今日の反省点を敢えて探せば、「気合が入り過ぎていた」ことかも知れ

ない。前回の試合から約1か月半を、最高のコンディションで望むべく調整してきた選手もいたと聞いた。試合内容は決して悪くなかった。気力が強すぎても点数は入らないのかも知れない。

残りは一試合、このチームには開幕戦で0-6で負けている。是非いい気分で来年につなげたい。  
【鈴木修平記】

◆2017年11月19日(日曜日) 宮城県サッカーリーグ2部第12節 塩釜NTFCヴィーゼ戦

試合開始：14:00 (40分ハーフ) アディダススポーツパーク

【結果】 0-1で負け。

【得点者】なし

【アシスト】なし

【スタメン】GK：永井惇（後半：松浦弘志）

DF：村岡優志、小関丈一朗、佐藤博一、齋藤太地

MF：松浦弘志、松行柊人、武田祐介、黒崎友弘

FW：金田和鷹、茂木淳、

【控え】門松孝尚、遠藤晃輔、名取優、岩渕雄太

【交代】永井惇→岩渕雄太、金田和鷹→名取優、小関丈一郎→門松孝尚、黒崎友弘→遠藤晃輔

【警告】なし

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【評】

午前中は太陽も顔を見せ、寒いながらもまあまあの天気であった。しかし午後になると一変し、時折雪が舞う寒い最終戦となつた。

最終戦の相手は、1位が確定している塩釜NTFCヴィーゼだ。開幕戦では0-6で負けているので一矢報いたいところだ。

14:00 キックオフ。

今日の試合のポイントは二つあった。一つは、これまでDFの要だった金田、門松、小関が来年卒業するので新しいメンバーでの連携を試してみることであった。いきなり実戦で試すのはちょっと無謀にも思えたが、相手が試合巧者だけに試金石となることだけは間違いないように思えた。もう一つは、今日が最後の試合になる選手が多くいるので、全員に出場してもらうことだった。

立ち上がり 3 分、いきなり相手のスピードあるパスワークでディフェンス網に隙が生じ、相手 FW がフリーで GK と対峙する状況になった。相手 FW は落ち着いてキーパーの脇の下を抜いたシュートを決めた。0-1。

その後は、東北クラブの方も持ち直し何度かチャンスを作る。

両サイドから個人技とパスワークで切り崩そうとするが、あと一歩のところまでは行くものの決定的なところまでは行かない。

それに対し相手チームは、パスワークも連携も個人技もうまく噛み合い、22分、29分、34分と着実に得点を重ね、前半を 0-4 で折り返す。

後半は、メンバー大幅に変えて新たな気持ちで臨む。中盤でのボール支配率が前半より良くなつたようで、それに比例してチャンスも増えて行つた。

いつもは左のポジションにいた名取が今日は右にいた。それが功を奏したのかどうかはわからないが、シュート・チャンスが多く巡ってきた。左からのセンタリングが上がる。右足で合わせた強烈なボレーシュートは・・・、バーに当たり跳ね返ってきた。スピードも申し分なかつた、コースも良かつた、あと数センチ下だったらと思うと残念だった。

その後も茂木が、松行が、武田が、遠藤が、岩渕がボールを奪取して攻めるが、相手は守備も上手く、そう簡単にゴールを割るような場面を作らせてはくれなかつた。

タイムアップのホイッスルが鳴り、今年度の最終戦は 0-5 で幕を閉じた。

県リーグ（2部）の結果は、最終的に 3 位となる。いろいろ苦戦をしながらも悪くない成績だったと思う。選手の皆さん、スタッフの皆さんご苦労様でした。

【鈴木修平記】